

加美町まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)に関する意見と町の考え方

ページ	意見の内容	性別	年齢	職業	区分	意見に対する町の考え
全体	<p>1 全般</p> <p>パブリックコメントの件数が少なく、大変残念に思います。加美町に関係する様々な世代の一人一人が、現状を認識し、強みを活かし、弱みを補完し、何か行動を起こさなければならないと考えています。みんなで行動を起こし、将来に向けて変化していく必要があると思います。まち・ひと・しごと創生は、全国の市町村で初めて考えることで、大都会にいる大企業が他地域での成功・失敗事例をコンサルすることに、どれだけの価値があるのでしょうか。補助金のみで行い・ハコものを作るだけ・他地域と同じ施策をして良いのでしょうか。加美町の色々な世代・環境・性別の方が個別に集まり、あつく語り合い、施策の検討会を開催するのは如何でしょうか。その場合、他人の意見を否定しないなどの討論・検討会のやり方は、専門家の指導を受けてから行った方が良くと思います。</p> <p>すでに、ワールドカフェで実施しているかも知れませんが、働く女性・育児をしている女性・介護している家族・小中学生の父兄・定年前の方・商店街の青年部・商店街の方・農業の青年部・農業の方・林業など、それぞれで検討し住民一体の施策検討が重要だと思います。</p>	男	50代	会社員	その他	<p>ご指摘のとおりパブリックコメントの件数が少ないのは、町の周知不足によるもので今後の反省とさせていただきます。</p> <p>今回、地方版の総合戦略を策定するにあたり、国は「産・官・学・金・労・言」の有識者を含む検討体制の整備を促しており、本町も「産・官・学・金・労」の有識者及び町民の代表15名で構成する総合戦略審議会を立ち上げ、総合戦略案の策定に向け審議してまいりました。</p> <p>また、総合戦略案については「子ども・子育て会議」や「議会常任委員会」などに計画策定段階から幅広く意見の聴取に努め、加美町独自の地方創生に向けた戦略案を検討してまいりました。</p> <p>本総合戦略の施行にあたっては、その進捗管理や提言についても幅広くご意見を聴取し、加美町の創生に努めてまいりたいと思います。</p>
全体	<p>2 KPI</p> <p>KPIは重要ですが、これだけにとられると、表面的にKPIを達成するための、税制優遇制度だけを実行するのでは困ります。例えば、移住した若夫婦のみ謝礼金が出て、長年加美町住人である若夫婦には恩恵がありません。また、移住しそうな若夫婦を市町村で奪い合っても意味が無いことだと思います。若夫婦に必要な手厚い支援として、時間外保育・おばあちゃんの知恵拝借、留守番支援など相互共助により、移住の若夫婦のみならず長年加美町住人の若夫婦にも恩恵があり、街が活性化すると思います。単なる、一回きりの補助で終わるのではなく、加美町独自のシステムを作るのが良いと思います。</p>	同	同	同	同	<p>日本の社会が、成長社会から成熟社会に転換を迎える中で、加美町が持続可能な町を実現するためには、21世紀に相応しい地域経済と地域社会の確立に向けた取り組みが重要であると考ております。最終案では、いただいたご意見を参考に、表面的なKPIではなく、本総合戦略において、加美町が地方創生で目指すべき姿を講ずべき施策の内容と合わせ、分かりやすい形で示したKPIに修正させていただきました。</p>
全体	<p>3 儲ける仕組み</p> <p>仕事があれば加美町に住みたい人はいます。しかし、仕事が無いので、仙台市などで生活しています。加美町の特産品を売るだけでは弱く、加美町で付加価値を高めるモノを売り、継続的に儲ける仕組みを見つける必要があると思います。バイオ発電・太陽光発電し東北電力へ売電するのでは独自性が少ないと思います。例えば、加美町の環境より考えると、鳴瀬川の水を活かした発電を行い、その発電基地を鳴瀬川上流につくり特産品へ結びつけ、観光に結び付けることが必要だと思います。</p>	同	同	同	同	<p>加美町には他の地域に負けない誇るべき地域資源を多数有しており、それらを活用し、「人が訪れたくなる、住み続けたくなるまちづくり」のため、仕事の創出やお金の循環を目指した施策の展開に向け、ご意見の内容を今後の参考にさせていただきます。</p>

ページ	意見の内容	性別	年齢	職業	区分	意見に対する町の考え
全体	4 街の活性化 お祭りやイベントで一時的に活性化するのではなく、継続的に人が集まり・交流する場所が必要だと思えます。岩手県紫波町の民活に、老人ホームと幼稚園を混ぜたものをイメージしています。また、毎日開催し住民が集まる事が出来る産地直産広場など、コミュニティの活性化が必要だと思えます。	同	同	同	同	加美町の第二次加美町総合計画「笑顔幸福プラン」作成時に小中学生に募集した「未来の加美町」の作文の中にも、「お年寄りや子ども、認知症の人や障がいを持っている人が誰でも集まれる、加美町自由館があったらいいなと思えます」という意見がありました。 いただいたご意見を参考に、地域の人々が気軽に集い、地域コミュニティが活性化されるような仕掛けづくりを検討してまいります。
全体	5 家庭内の複数世代同居と近所の助け合い 相互の助け合いが必要だと思えます。継続的に支援することが必要だと思えます。	同	同	同	同	加美町は他地区よりも三世代の同居の割合が高く、また近隣との関わり合いも決して希薄ではありません。内閣府の「農産漁村に関するアンケート調査」によると、首都圏在住の方の30%以上が農山漁村に定住してみたいと回答しております。人間関係が希薄で自然から切り離された都会の環境の中では、所有欲求が満たされることはあっても、存在欲求が満たされることはありません。 加美町では人の満たされない欲求を満たすことで選ばれる地域づくりを進め、相互助け合いの中で自己の存在欲求を満たし、町民が笑顔で幸せを感じられるまちづくりを進めてまいります。
人口ビジョン	詳しく分析された資料であり危機感を感じました。アンケートやワールドカフェでの声は分かるのですが、これから加美町独自の施策に持って行くことが必要だと思えます。中間案に記された内容で方向性は理解しますが、今後の深堀を期待します。	同	同	同	同	加美町が他の地域から選ばれ、町内定住を図るために必要なことについて、高校生と大学生を対象としたアンケート調査を実施しました。 アンケートの結果によると、「加美町が力を入れることについて」という設問では、高校生、大学生とも「公共交通の充実」、「まちの賑わいの創出」、「子育て支援の充実」、「まちのPR活動」を上位にあげており、皆さまからのご意見を参考にしたまちづくりを進め、平成72年における人口15,000人の達成を目指してまいります。
総合戦略	講ずべき施策の基本方向に記された内容を、具体的な施策にすることが重要だと思えます。補助金の一時的な支援ではなく、住民参加型の具体的な施策を期待します。	同	同	同	同	いただいたご意見を参考に、加美町の創生実現に向け、一過性の補助事業ではなく、まちづくりの基本理念である「協働」に基づき、住民、行政、まちづくりサポーターなどが対等な立場で協力しながら、それぞれの役割分担のもと、責任を持って取り組み、共通する課題の解決や目的の実現に向けたまちづくりを進めてまいります。